

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F113310103885	設置等組織名	理工学部（グリーンテクノロジー学科）
大学名	創価大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	東京	事業計画名	創価大学理工学部 グリーンテクノロジー学科（仮称）設置計画

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	1-① 令和6年7月～ 新学科設置準備事務室の設置 1-② 令和6年7月～ 新学科設置周知のための広報/パンフレットの作成 1-③ 令和6年8月～ 学生定員確保の見通しに係るアンケート等調査の実施 1-④ 令和6年8月～ 実験実習を行う授業科目の実験実施項目および安全性検討のための予備実験の実施 1-⑤ 令和6年8月～ 新学科における留学生確保とニース調査のための本学国外連携校への訪問（ブラジル、マレーシア） 1-⑥ 令和6年9月～ カリキュラム検討のための本事業採択校等の国内大学、及び連携予定企業への訪問調査 1-⑦ 令和6年9月～ 連携予定企業との新学科産学連携協議会の準備会議の開催 1-⑧ 令和6年10月 新学科届出設置に係る大学設置・学校法人審議会大学設置分科会運営委員会への事前相談書類の提出	1-① 令和6年7月～ 新学科設置準備事務室の設置（R6年7月～専任職員配置、令和7年2月～嘱託職員採用） 1-② 令和7年1月～ 新学科設置周知のための広報/パンフレットの作成 1-③ 令和6年7月～ 学生定員確保の見通しに係るアンケート等調査の実施 1-④ 令和6年8月～ 実験実習を行う授業科目の実験実施項目および安全性検討のための予備実験の実施 1-⑤ 令和6年8月～ 新学科における留学生確保とニース調査のための本学国外連携校への訪問（ メキシコ 、 ブラジル 、 タイ ） 1-⑥ 令和6年9月～ カリキュラム検討のための本事業採択校等の国内大学、及び連携予定企業への訪問調査 1-⑦ 令和7年3月 連携予定企業とオンラインでの打ち合わせを実施 1-⑧ 令和6年10月、令和7年1月 新学科届出設置に係る大学設置・学校法人審議会大学設置分科会運営委員会への事前相談書類の提出（令和7年3月 結果受領、届出設置可との判定） 【改組内容】 ・令和6年 理工学部グリーンテクノロジー学科について、改めてカリキュラムの検討を行い、地球科学を中心に化学等の理学科に関する科目をカリキュラムに加えることとし、これに伴って学位分野を当初計画の「工学関係」のみから、「理学関係・工学関係」に変更して学科の届出設置を行うこととした。令和7年1月に事前相談を行い、令和7年3月に届出設置可との判定を受けた。（令和8年度開設） ・令和6年 理工学部グリーンテクノロジー学科の設置に伴って、既設の「理工学部共生創造理工学科」について、当初は定員減を行ったうえで学科名称の変更を行う計画であったが、改めて改組の内容を検討した結果、同学科を廃止し、新たに「理工学部生命理工学科」を開設することとした。同学科については、令和6年10月に事前相談を行い、令和6年12月に届出設置可の判定を受けた。（令和8年度開設） ・令和6年 理工学部グリーンテクノロジー学科の設置に伴って既存学部（文系）の再編について検討を行い、経済学部と経営学部を廃止し、新たに経済経営学部ビジネス学科を設置することとした。この学部の新設は、令和6年10月に事前相談を行い、令和6年12月に届出設置可との判定を受けた。（令和8年度開設）	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 前倒し	2-① 令和6年12月～ 実習用園場及び排水設備の設置・整備工事 2-② 令和7年2月～ 理工学部棟内実験室改修工事及び実験室設備設置工事	2-① 令和6年12月～ 実習用園場及び排水設備の設置・整備工事 2-② 令和7年2月～ 理工学部棟内実験室改修工事及び実験室設備設置工事	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
認可申請又は届出	令和7年4月 理工学部グリーンテクノロジー学科 学科の設置届出予定	令和7年4月 理工学部グリーンテクノロジー学科 学科の設置届出 令和7年4月 理工学部生命理工学科 学科の設置届出 令和7年4月 経済経営学部ビジネス学科 学科の設置届出		
フェーズ1 後倒し	1-① 令和6年から継続 新学科設置準備室の設置 1-② 令和6年から継続 新学科設置周知のための広報/パンフレットの作成 1-③ 令和6年から継続 学生定員確保の見通しに係るアンケート等調査の実施 1-④ 令和6年から継続 実験実習を行う授業科目の実験実施項目および安全性検討のための予備実験の実施 1-⑤ 令和7年5月～ 国内及び国外での新学科学生募集説明会の開催（東京、大阪、ブラジル、マレーシア） 1-⑥ 令和7年8月～ 連携予定企業との新学科産学連携協議会の開催	1-① 令和6年から継続 新学科設置準備室の設置 1-② 令和6年から継続 新学科設置周知のための広報/パンフレットの作成 1-③ 令和6年から継続 学生定員確保の見通しに係るアンケート等調査の実施 1-④ 令和6年から継続 実験実習を行う授業科目の実験実施項目および安全性検討のための予備実験の実施 1-⑤ 令和7年5月～ 国内及び国外での新学科学生募集説明会の開催（東京、大阪、ブラジル、マレーシア） 1-⑥ 令和7年8月～ 連携予定企業との新学科産学連携協議会の開催	○年度自己評価	リストから選択してください。
	2-① 令和6年12月から継続 実習用園場及び排水設備等の設置・整備工事 2-② 令和7年2月から継続 理工学部棟内実験室改修工事及び実験室設備設置工事	2-① 令和6年12月から継続 実習用園場及び排水設備等の設置・整備工事 2-② 令和7年2月から継続 理工学部棟内実験室改修工事及び実験室設備設置工事	○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和8年4月 理工学部グリーンテクノロジー学科 開設予定（入学定員60名、工学関係）	令和8年4月 理工学部グリーンテクノロジー学科 開設（入学定員60名、理学関係・工学関係） 令和8年4月 理工学部生命理工学科 開設（入学定員55名、理学関係・工学関係） 令和8年4月 経済経営学部開設（入学定員280名、編入学生定員20名、経済学関係）		
フェーズ2 後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	3-① 令和8年4月～ 新学科運営のための事務職員を理工学部事務室内に配置（新学科設置準備室事務職員を充当） 3-② 令和8年4月～ 新学科開設の広報活動及び学生募集説明会の開催 3-③ 令和8年12月～ 連携企業協議会の開催 3-④ 令和9年2月～ 新学科自己点検・評価委員会の開催		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和7年4月 理工学部共生創造理工学科の収容定員減及び学科名称変更に係る届出予定（令和8年度より定員減の上で学科名称変更） 令和7年4月 既設文系学部の収容定員減に係る届出予定（令和8年度より入学定員減）	令和7年3月 理工学部共生創造理工学科 学生募集停止の報告（入学定員90名、理学関係・工学関係） 令和7年3月 経済学部経済学科 学生募集停止の報告（入学定員190名、編入学生定員18名、経済学関係） 令和7年3月 経営学部経営学科 学生募集停止の報告（入学定員190名、編入学生定員26名、経済学関係） 令和8年4月 理工学部共生創造理工学科 学生募集停止（同上） 令和8年4月 経済学部経済学科 学生募集停止（同上、3年次編入学生定員は令和10年度より学生募集停止） 令和8年4月 経営学部経営学科 学生募集停止（同上、3年次編入学生定員は令和10年度より学生募集停止）	○年度自己評価	リストから選択してください。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	創価大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている	☒ チェック
確認の対象に該当しない	☐ チェック
- ② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--
- ③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--
- ④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--
- ⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--
- ⑥ 特定成長分野に係る学部を設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--
- ⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--
- ⑦ 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--
- ⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--
- ⑨ 事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック
----------------------	--
- ⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--
- ⑪ フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--
- ⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--
- ⑬ 選定された大学は、公算要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック
--------------------------	--
- ⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック
--------------------	--

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	創価大学
-------------	-------	-----	------

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）
- ☒ チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☒ チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
【a.企業や自治体と連携した科目の整備・実施】 グリーンテクノロジー学科では、実務家教員による授業科目の提供や、連携企業等から派遣された学外講師によるオムニバス授業科目を開講し、課題解決型の授業を行うとともに、グリーンテクノロジー企業等でのインターンシップを行うキャリア科目を配置することで、政府・自治体・既存企業が要求するカーボンニュートラル事業を立案、牽引する人材を育成する。 【c.関連分野に強みをもつ海外大学との連携】 グリーンテクノロジー学科では国際的に開かれた学科を目指して、オンラインを利用した海外交流校との共同授業（インドネシアのスラバヤ工科大学など）、海外交流校・海外共同研究機関（アメリカのフロリダ大学・サリー大学、マレーシアのプトラ大学・トレンガヌ大学など）からの招聘教員による英語での専門科目の授業、同交流校・共同研究機関での海外インターンシップや研究を実施する。	【a.企業や自治体と連携した科目の整備・実施】 オムニバス科目の開講およびインターンシップの実施に向けて、R6年度はAGBIOTECH株式会社と協議を行った。また、八王子市が実施する環境教育プログラムについて、グリーンテクノロジー学科学生の参加方法やカリキュラムへの組み入れなどについて検討を行った。また、メキシコにおいてメキシコ日本商工会議所を訪問し、インターンシップ受入等のニーズ調査を行った。 【c.関連分野に強みをもつ海外大学との連携】 ブラジル・マナウス市を訪問し、アマゾン創価研究所、日本リークレス工業株式会社（Leakless do Brasil Ltda）、Center for Sustainable Rural Projects in the Amazonとグリーンテクノロジー学科で実施する海外研修について打ち合わせを行うとともに、ブラジル・サンパウロ市にあるABC連邦大学を訪問し、学生交流及び研究交流についての打ち合わせを行った。	

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- ☒ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック

d.社会人学生の受け入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☒ チェック

e.留学生の受け入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
【a.入学者選抜における科目の見直し】 本学の既存学部・学科にはない文理融合教育という特徴を踏まえ、フェーズ1において文系科目での受験も可能となる入試制度、及び科目の見直しを行う。 【b.女子学生の確保に向けた取り組み】 女子学生の志願者数増のため、神田女学園中学校・高等学校と高大教育連携協定を締結し、同校の「全校フィールドワーク」において、理系分野での体験授業を提供する予定となっている。さらに、内閣府主催の理工チャレンジにおける「理工系女子応援ネットワーク」への参画、及び女子中高生に理工系分野に興味・関心を持ってもらえるようなイベントを企画する。 【c.地域の初等中等教育段階の学校との連携】 本学では探究活動を担当する高校や教育系企業の意見をもとに、高校の「総合的な探究の時間」をサポートする創価大学オリジナルの出前授業プログラム「探求授業 そわか！」を開発し、令和5年度より首都圏の高校を対象にプログラムの提供を開始している。グリーンテクノロジー学科においても、同プログラムへのコンテンツを提供し、地域の初等中等教育段階との連携を行う。 【e.留学生の受け入れ強化に向けた取り組み】 国際バカロレア（IB）機構プログラムを持つブラジル創価高校および創価インターナショナルスクール・マレーシアなどの連携校において、本学教職員が現地で入試説明会を開催し、留学生の受け入れ強化を行う。また、当該高校生向けにオンラインで学科説明会・模擬授業を開催し、学科カリキュラムの特色および修学イメージの理解を深める機会を設ける。更に、文部科学省の「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に応募し、連携校に限らず途上国を含む幅広い地域からの国費奨学金留学生（学部留学生）の獲得を目指す。	【a.入学者選抜における科目の見直し】 グリーンテクノロジー学科は、文理融合型のカリキュラム編成とすることから、入学試験における科目の見直しを行い、文系科目でも受験が可能なよう科目の見直しを行い、R7年3月13日にホームページ上で公表した。 【b.女子学生の確保に向けた取り組み】 女子学生の志願者獲得に向けて、神田女学園中学校・高等学校を訪問し、今後の連携についての協議を行うとともに、本学にて同校の探求授業である「フィールドトリップ」の授業および実験体験を実施した。また、総合型選抜入試の一つとして理工学部として「女子特別選抜入試」の導入について検討を行った。 【c.地域の初等中等教育段階の学校との連携】 現在本学で実施している出前授業プログラム「探求授業 そわか！」について、グリーンテクノロジー学科からどのようなコンテンツの提供が可能か検討を開始した。また、本学の系列校である創価中学校・高等学校（東京都小平市）、関西創価中学校・高等学校（大阪府交野市）の生徒を対象に、理系に関する関心を高めてもらうことを目的に「アドバンスト・サイエンスセミナー（高2対象）」「ジュニア・サイエンス・スクール（中学生対象）」「オンライン・サイエンス・セミナー（高1対象）」を実施した。 【e.留学生の受け入れ強化に向けた取り組み】 留学生の受け入れ強化に向け、メキシコ・グアナフアト州にあるグアナフアト大学付属高校、およびブラジル・サンパウロ市にあるブラジル創価学園を訪問し、同校関係者に対してグリーンテクノロジー学科についての説明と、今後の海外指定校推薦入試の実施を含めた協議を行った。また、ブラジル創価学園においては、同校の生徒を対象にグリーンテクノロジー学科開設に関する説明会を行った。 さらに、タイ・バンコク市にあるKasetsart University Laboratory School（Satit Kaset）、Panyapiwat Institute of Management Demonstration School（Satit PIM）、DOK-MALLY language school（日本語学校）、jeducation（日本語学校）を訪問し、学校関係者へのグリーンテクノロジー学科についての説明と入学者確保に向けた協議を行った。	

大学名	創価大学
-----	------

1.本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	創価大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1500	1500																	
		入学者数	人	1264	1242																	
	その他の学期	入学定員	人	0	0																	
		入学者数	人	35																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,500	1,500																	
		入学者数(B)	人	1,299	1,242																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.87	0.83																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	6184	6184																	
		編入学定員	人	92	92																	
		在籍者数(D)	人	5881	5618																	
		編入学者数	人	114	107																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.95	0.91																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定－6年	選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定													
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	2,735,447	2,402,889	1,659,436	2,236,759	2,903,047	3,539,515													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	2,458,365
本事業による助成金の額(F)	千円	172,300
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	2,462,673

特記事項

「2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況」のR6年度およびR7年度の編入学定員、および「3.大学（学士課程）の状況」のR6年度およびR7年度のその他の学期の入学定員0人とは若干名を意味している。
